

令和 6 年度 横浜デジタルアーツ専門学校 学校関係者評価委員会報告書

(令和 6 年 4 月～令和 7 年 3 月)

0. 実施状況

グループ長指示の下、教務 GL が自己評価表を作成し、教職員リーダー 9 名でそれぞれの項目について点検、評価を行い、取りまとめを行った。評価は、「1 (不適切) ～4 (適切)」の 4 段階評価とし、併せて、可能な限り根拠や課題を明示するように努めた。

自己評価を実施後、専門分野における業界関係者、卒業生、接続がある学校関係者らから組織される学校関係者評価委員会を開催。自己評価報告に基づき、委員に評価・意見を求めた。指摘された改善点について、あるいはその後の学校運営の進捗により必要となった課題について、改めて教務部で検討を行い、対応を進めている。

1. 開催日時

令和 7 年 8 月 25 日 (月) 13:00～14:30

2. 学校関係者評価委員

関 克則氏	校長	神奈川県立神奈川産業高等学校	校長
菊池匡文氏	企業等委員	横須賀商工会議所	専務理事
北川貴和子氏	企業等委員・卒業生	株式会社高陽印刷所	取締役
小峰正仁氏	企業等委員	株式会社ブルーム	代表取締役
上坂伸夫氏	企業等委員	株式会社フジパシフィックミュージック	エグゼクティブプロデューサー

3. 出席教職員

山上 紀彦	グループ長	坂口 雅子	教務チーム	課長補佐
高内 一平	教務チーム GL	高原 誠	教務チーム	課長補佐
指澤 祐二	教務チーム SL	宮下 隆友己	教務チーム	上席専門官
和久 雄亮	経営管理チーム SL	木村 稔	教務チーム	上席専門官
鈴木 伸也	経営管理チーム 主査	高田 知佳	教務チーム	専門教員
藤原 光洋	教務チーム 課長補佐	神林 香里	教務チーム	副主任
鈴木 伸幸	教務チーム 課長補佐	高濱 由布子	教務チーム	



3. 自己評価報告と学校関係者評価・意見、及びその後の対応状況

令和6年4月1日より令和7年3月31日までの学校運営についての自己評価報告、委員の意見、ならびに意見を踏まえた対応は以下のとおり。

(1) 教育理念・目標

<報告>

- ・教育理念・目標は、「高度な技術力の習得・プレゼンテーション能力の育成・豊かな人間性の涵養」。
- ・学生に科目毎のシラバスを作成・配布。非常勤講師との意識統一、教育レベル安定のために、講師ミーティング、日々の授業後等において、周知徹底している。
- ・R3年度より3つのポリシーも制定し、入学案内、募集要項に記載している。

<評価・意見>

自己評価について、課題や改善策が整理されており、学校として適切に自己分析が行われているとの評価をいただいた。

<対応>

前期後期で年2回、教育課程編成委員会を開催し、委員の意見を集約する。令和7年度は8月25日、3月23日に実施。具体的な教授方法、進捗状況などを確認する。

(2) 学校運営

<報告>

- ・年度当初に事業計画・予算の策定。定期的な会議等により学校運営の進捗状況、課題等を全教職員が把握。
- ・学生支援や学生募集業務の増加に対応するため、令和6年度は教員4名を増員した。

<評価・意見>

- ・教職員数が現在の業務量に対して十分であるか、また教職員の負担やモチベーションについても継続的な把握が必要であるとの意見をいただいた。
- ・学校全体だけではなく、学科ごとの課題も共有することで、より実効性の高い学校関係者評価になるとの意見があった。

<対応>

- ・教職員配置及び業務分担について継続的に見直しを行い、業務の効率化を進める。
- ・学校関係者評価委員会へ提供する資料についても改善し、学校全体及び学科ごとの状況がより分かりやすく伝わるよう工夫する。

(3) 教育活動

3)-1 カリキュラム（教育課程）

<報告>

- ・教育課程編成委員会を開催し、企業・業界の意見を反映したカリキュラム編成を実施。
- ・企業連携授業22講座、企業連携プロジェクト19件を実施。
- ・選択授業「プラスα講座」や特別講座を設け、社会ニーズに応じた教育を実施している。

<評価・意見>

- ・AI活用については、企業ではAIを活用できる人材が求められており、適切に使いこなす力を育成する教育が重要との意見があった。

- ・一方で、基礎的な知識・技能を身に付けたうえで AI を活用することや、著作権等への配慮を含めた教育も重要であるとの意見があった。

＜対応＞

- ・学科特性に応じた AI 活用教育及び AI リテラシー教育を推進するとともに、教育課程編成委員会等の意見も踏まえながら教育内容の充実を図る。

(3)-2 教員の質確保・研修等

＜報告＞

- ・教員の質については、学歴や業務経験、人物など総合的な基準を設けた採用。学生アンケート（授業評価）実施、グループ・個人目標設定して改善。
- ・教員の指導力育成のための外部セミナー、研修会等への参加義務付けている。

＜評価・意見＞

- ・（特になし）

＜対応＞

- ・最新技術や教育手法に関する研修への参加を継続し、教員の専門性及び指導力向上を図る。

(3)-3 インターンシップ・成果発表等

＜報告＞

- ・企業実習 31 件、企業連携プロジェクト 19 件を実施。
- ・前期発表会及び YDA EXHIBITION を開催し、企業から学生作品への講評をいただいた。

＜評価・意見＞

- ・インターンシップは実施件数だけではなく、教育効果や学生が希望どおり参加できているかなど、質の面からの評価も重要であるとの意見があった。
- ・対面による成果発表やプレゼンテーションはコミュニケーション能力向上の観点から重要であり、継続して取り組んでほしいとの意見があった。

＜対応＞

- ・インターンシップについては参加実績だけでなく教育効果等の把握にも努める。
- ・成果発表や企業との交流機会を継続的に設け、学生のコミュニケーション能力及び実践力の向上を図る。

(4) 教育成果

(4)-1 就職

＜報告＞

- ・キャリア開発部職員が、学科担当者、担任と連携して学生の就職指導を行っている。求人票や過去の就職活動のデータベース化などのシステムを構築。
- ・令和 6 年度卒業生の就職希望者内定率は 93.6%、専門就職率は 60.3%となった。
- ・引き続き、インターンシップや正規の授業以外に特別授業を実施するなど弾力的、受験企業別の対応を行い、就職実績向上を図る。

＜評価・意見＞

- ・就職率だけではなく、起業や多様な進路も含めたキャリア形成について検討していくことが望ましいとの意見があった。

＜対応＞

- ・就職支援に加え、多様なキャリア形成についても情報提供を行い、学生一人ひとりの希望に応じた進路支援を進める。

(4)-2 退学

＜報告＞

- ・令和6年度退学率は5.09%となり改善傾向にあるものの、目標値には届かなかった。
R6年度は。学科ミスマッチ・学習不振からくるメンタルダウンや、適応障害、躁鬱、起立性調節障害などを持つ学生の欠席が多く、退学に至ったケースが増加している。

＜評価・意見＞

- ・退学率については経年比較や改善施策との関係を示すことで、より評価しやすい資料となるとの意見があった。
- ・精神面の課題を抱える学生への支援については、学校だけでなく専門機関との連携も重要であるとの意見があった。

＜対応＞

- ・退学率については経年分析を行い、改善施策との関連を整理しながら教育改善へ活用する。
- ・専門カウンセラー等との連携を継続し、学生支援体制の充実を図る。

(5) 学生支援

＜報告＞

- ・メンタル面での不調を訴える学生の増加。本校ではカウンセラー1名を採用、オンラインやメール等での対応も行っている。ほかにも、犯罪・薬物・消費トラブルなどの指導、震災・災害発生時の対応などの指導。
- ・経済的事情により就学継続できない学生増は、奨学金利用のサポートの強化、独自の学費分割納入制度の導入・紹介もあり、改善している。
- ・保護者への情報提供については、年間スケジュールに従い、成績、出欠状況を送付。
- ・学生が主体的に取り組む学外での創作・演奏活動（作品販売、コンサート等）について、出展費用など支援している。令和4年度はコロナ禍後再開している。

＜評価・意見＞

- ・（特になし）

＜対応＞

- ・引き続き、学生の主体的な活動を支援していく。

(6) 教育環境

＜報告＞

- ・入学者全員に貸与するノート PC（作品制作ソフト）と併せて、教育設備・環境の整備に力を入れている。

＜評価・意見＞

（特になし）

＜対応＞

令和6年度も引き続き教育環境の整備を進める予定。

(7) 学生募集

<報告>

- ・年度当初に募集計画（募集人数、予算、広報媒体、イベント等）を定め、募集活動を行っている。令和6年度入学者はやや減少したものの、4年制学科が増えているため在籍数は増加している。
- ・学校見学や説明会、体験入学等、入学を検討するイベントを数多く実施。入学後のミスマッチ（勘違い・思い込みによる入学）防止に努めている。

<評価・意見>

（特になし）

<対応>

引き続き、オープンキャンパスメニューとして、体験入学、作品見学&学校説明会、進学資金説明会、特別講座のほか、分野別の説明会を実施予定。

(8) 社会貢献

<報告>

- ・神奈川県専修学校各種学校協会が主催する小中高校生向けにキャリア教育プログラムに参画。主に夏休みを利用した講座で、毎回、多くの小中高校生が参加している。
- ・地域の様々な活動が推進されるなか、本校の体育館などの設備開放が求められてきており、学校休業日に施設の貸し出しを行っている。
- ・未来のクリエイターである中高生を対象にイラストコンテストを開催している。なかには授業や部活動として取り組む高校もあり、評価されている。

<評価・意見>

（特になし）

<対応>

- ・令和6年度も引き続き、イラストコンテストを開催する予定。

(9) 財務

<報告>

- ・入学者の確保に努め、入学者変動を抑えながら、収益事業を展開することで財政基盤の安定を図っている。
- ・人件費、広報費は、学園ガイドラインに従い、予算・収支計画を立案の上、執行しており、監査は、監査人により実施しており、体制が確立されている。

<評価・意見>

（特になし）

<対応>

引き続き、学校経営の安定化に努める。

(10) 法令等の遵守

<報告>

- ・設置や運営に関わる法令は遵守しており、毎年5月には県の現況調査を受けている。
- ・「専修学校における学校評価ガイドライン」に従い、自己評価、学校関係者評価の体制を整備し、実施、およびその結果について、ホームページにて公開している。

<評価・意見>

(特になし)

<対応>

引き続き、法令遵守していく。

以上